

# 令和3年度病虫害発生予察情報 注意報 第6号

令和3年8月6日  
岩手県病虫害防除所

**出穂期における水田内での斑点米カメムシ類の発生量は、平年より多く、斑点米の多発が懸念されます。**  
**発生が多い圃場では、穂揃期2週間後の追加防除を徹底しましょう。**

- 1 対象作物、病虫害 : 水稻、斑点米カメムシ類
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生時期 : やや早（アカスジカスミカメ第2世代成虫）
- 4 発生量 : 多
- 5 予報の根拠

- (1) 出穂期（7月29日～8月5日）に実施した本田すくい取り調査（76圃場、久慈・宮古・気仙地域除く）では、発生圃場率は64.5%（平年39.2%）であり、過去10年間で最も高い（図1）。
- (2) 本田内にノビエやイヌホタルイ、シズイが残草している水田で、斑点米カメムシ類が多数すくいとられている（表1）。
- (3) 向こう1か月（8月7日～9月6日）の平均気温は高い見込みであり、主要加害種のアカスジカスミカメ第2世代羽化盛期は平年よりやや早まるとともに、斑点米カメムシ類の水田内への侵入や加害が活発になる可能性が高い。

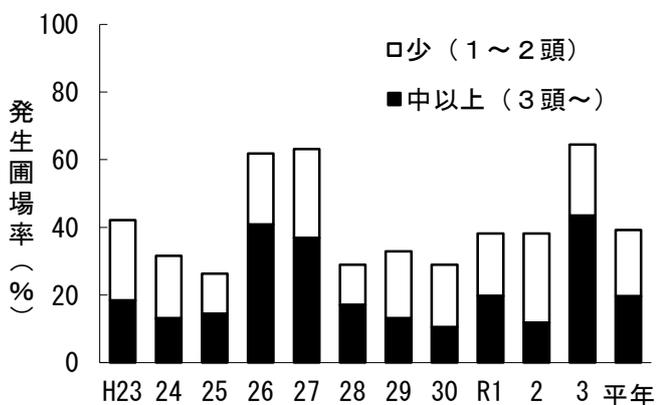


表1 水田内雑草発生の有無とカメムシ類の平均すくい取り頭数

水田内雑草	圃場数	平均すくい取り頭数
有	32	10.9
無	44	4.4

※8月上旬巡回調査、本田、往復20回振  
※久慈、宮古、気仙地域を除く

図1 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生圃場率  
(8月上旬巡回調査、本田、往復20回振)  
※久慈、宮古、気仙地域を除く

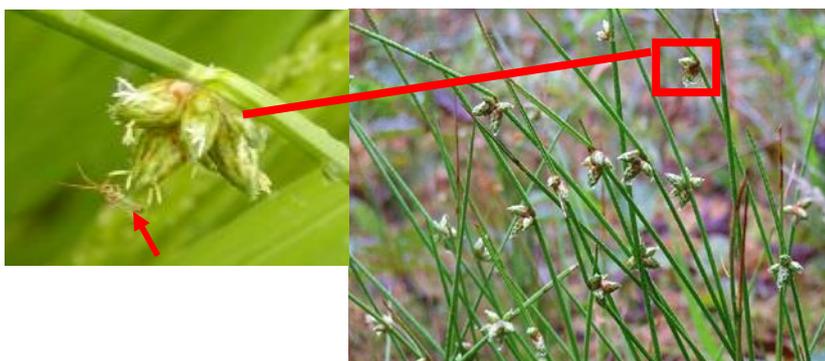


写真 イヌホタルイ（右）とイヌホタルイについたアカスジカスミカメ（左、矢印）

## 6 防除対策

- (1) 水田付近に出穂開花したイネ科植物（イタリアンライグラス等）を含んだ牧草地や雑草地等がある場合や、本田内にノビエ、イヌホタルイ、シズイが多発している圃場では、カメムシ類の発生量が多い可能性が高いため、穂揃期2週間後の追加防除を実施する。
- (2) 登熟期間が高温で経過すると、割れ粃の発生が助長されるため、割れ粃の多い品種（あきたこまち等）は穂揃期2週間後の追加防除を実施する。
- (3) ただし、穂揃期1週間後にジノテフラン剤（アルバリン剤、スタークル剤）を使用した場合の追加防除は穂揃期3週間後に実施する。
- (4) 薬剤による防除は、カメムシ類の生息する畦畔にも散布する。
- (5) 水稻出穂期以降に畦畔の草刈りを行う場合は、本田の薬剤散布（穂揃期1週間）後7日以内に実施する。
- (6) 農薬散布にあたっては、農薬使用基準（特に収穫前日数）を遵守するとともに、周辺への飛散防止に努める。

## 7 留意事項

養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する場合は、養蜂家等への防除計画の事前周知に努めるなど、ミツバチの危害防止対策を徹底する。

### ～農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)～

#### 【利用上の注意】

本資料は、令和3年8月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

